

令和7年度 第2回 学校運営協議会 議事録

1. 日時 令和7年10月31日（金）18時00分～20時30分

2. 開催方法 対面

3. 学校運営協議会（定時制部会）名簿

- | | | | |
|----|--------|----|-----|
| 1) | 会長 | 岩野 | 豊治 |
| | 副会長 | 大堀 | 彰子 |
| | 委員 | 吉岡 | 哲郎 |
| | 委員 | 吉澤 | 省之 |
| | 委員 | 鈴木 | 健仁 |
| | 委員 | 福岡 | 千晶 |
| 2) | 准校長 | 安達 | 武史 |
| | 教頭 | 中村 | 有希 |
| | 教務主任 | 野口 | 結衣 |
| | 生徒指導主事 | 坂下 | 一輝 |
| | 進路指導主事 | 山川 | 恵美子 |

4. 議事内容

- 1) 准校長挨拶
- 2) 委委員・事務局紹介
- 3) 会長挨拶
- 4) 令和8年度学校経営計画の実施状況について
- 5) 学校の現状及び課題について報告
- 6) 協議「本校の現状と課題を踏まえた今後の在り方」
- 7) 事務連絡
- 8) 閉会挨拶

5. 学校教育計画の実施状況、学校の現状及び課題について

(1) 教務部より（資料3－2）

・在籍者数について

8月1日付で編入・転入生3名が入学し、9月30日付で2名が卒業した。

・出席状況について

1年生は昨年度と比較して出席率がやや低下した。一方、2年生から4年生は出席率が向上している。これは、学年が上がるにつれて登校のリズムが確立され、学校生活への適応が進んでいることが要因であると考えられる。

(2) 授業見学

- ・約 30 分間、授業の様子を見学した。

(3) 准校長より学校教育の実施状況について（資料 1）

- ・学校経営は、「学力伸長と進路実現」「心の教育の充実」「校務の効率化と働き方改革の推進」の 3 つを柱として進めており、全体としておおむね計画どおり順調に進行している。

- ・学力伸長と進路実現について

① 学力の伸長

教員の多くが生徒の実態や学力に応じた授業を実施していることが、学力向上につながっている。内容的には高度に見える授業であっても、ICT を活用しながら分かりやすく工夫された授業が行われている。准校長自身も授業見学を行い、必要に応じて教員への助言や講評を実施している。

② 進路実現

就職や進学が決定している生徒もあり、現在も進路実現に向けて努力している生徒がいる。全教員による面接指導をはじめ、生徒一人ひとりの進路実現に向けた支援を行っている。また、進路説明会を実施し、将来の進路について考える機会を設けている。

- ・心の教育の充実について

① 人権教育・ボランティア活動

ボランティア活動等を通じて、生徒のモラル向上が図られていると感じている。また、生徒だけでなく教職員に対しても、堺大空襲の語り部による研修などの人権教育を実施している。SNS の普及により新たな形の差別も生じていることから、今後も人権教育を継続していく。

② 学校行事

准校長として着任して初めての文化祭だったが、体験型の企画も多く、生徒が主体的に活動する様子から、豊かな心を育む教育につながっていると感じた。

③ 教育相談体制

教職員は研修で得た知識や技術を速やかに実践に生かしており、生徒一人ひとりの状況に応じた丁寧な対応を行っている。

- ・校務の効率化と働き方改革の推進について

ペーパーレス化の推進や学校行事の運営方法の見直しなど、業務の効率化に取り組んでいる。また、定時制課程の勤務形態を踏まえ、教職員の健康管理にも十分配慮している。

(4) 教頭より前期授業アンケート結果について（資料 2）

全体としては、昨年度より評価が向上していた。学年別では、高学年になるほど評価が高い傾向が見られた。1 年生については、高校での学習にまだ十分慣れていないことが、評価に影響しているものと考えられる。教科別では、国語の評価が学校平均を大きく下回った。今年度、定時制課程での指導経験が浅い教員が着任したことも要因の一つと考えられる。そのため、教科内での研修や授業見学会の実施などを通して授業改善に取り組んでいる。

(5) 教頭よりその他の学校活動について（資料 3 - 1）

① 学校広報活動について

今年度の夏季中学校訪問については、学校案内資料の送付により対応した。夏季の段階では定時制課程を進学先として検討する中学生が比較的少ないためである。今後、冬季にも資料送付を予定している。学校説明会は 12 月と 1 月に実施予定である。また、大阪府進学フェアを 7 月に、大阪南エリア合同説明会を 8 月に実施した。

② 校外学習について

5月30日（金）に実施し、大阪・関西万博において校外学習を行った。

③ 前期卒業式について

9月30日（火）に実施し、2名が卒業した。なお、今年度をもって前期卒業制度は終了となる。

④ 大阪府高等学校定時制通信制生徒秋季発表大会について

10月12日（日）に開催され、美術・工芸部門において本校生徒1名が奨励賞を受賞した。

⑤ 修学旅行について

11月19日（水）から11月21日（金）まで、長崎県を中心とした行程で実施予定である。

（6）生徒指導部より（資料3-3）

① 懲戒指導について

第1回学校運営協議会以降、喫煙による指導事案が2件あった。

② 各種講習会について

薬物乱用防止教育では大阪税関の協力を得て、麻薬探知犬の活動を通じて薬物に関する理解を深めた。交通安全講習については、従来の警察による講習から、阪和鳳自動車学校による講習へ変更して実施する予定である。

③ 部活動について

大きな変更はない。表彰等の実績については、次回学校運営協議会で報告する予定である。

④ 定期健康診断受検率及び保健室利用状況について

長期欠席生徒を除き、定期健康診断は全員が受検している。

保健室の利用者数は引き続き多い状況であり、本来支援を必要とする生徒が利用しにくくなることが懸念されている。

（7）進路指導部より（資料3-4）

※資料訂正

学校紹介による就職希望者：4名 → 2名

一般・縁故・現職・公務員・支援機関等による就職希望者：2名 → 4名

進学決定者：1名 → 2名

今後の取組として、11月28日に第2回キャリア教育、1月16日に第3回キャリア教育を実施予定である。また、2月17日には来年度卒業予定者を対象とした進路説明会を実施し、進学・就職に向けた支援を行う予定である。

6. 協議

委員

アルバイトに就くことが難しい生徒とは、どのような状況を指しているのか。

事務局

面接でうまく受け答えができない、人前で緊張してしまうなどの理由により、採用に至らないケースがある。

委員

本日見学した授業は敬語に関する授業か。

事務局

将来の社会生活を見据え、敬語を適切に用いて書く力や話す力を身に付けられるよう、授業の中で敬語指導を取り入れている。

委員

社会に出た際に役立つ実践的な内容であり、大変良い取組だと思う。

委員

日頃からコミュニケーションを取る機会が少ない生徒にとって、社会と関わる機会を持つことは重要である。保育園訪問は今年度も実施しているのか。

教頭

実施している。

委員

授業アンケートにおける国語科の評価が低い点は気になるが、生徒が真摯に考えて回答した結果であると思う。今後の改善に期待したい。

委員

高野線沿線には定時制高校が少ないため、三国丘高校定時制課程への進学を希望する声を中学校で聞くことがある。最も遠方から通学している生徒はどの地域から来ているのか。

事務局

現在は特に遠距離通学の生徒はいない。過去には泉佐野市から通学していた生徒がいた。定時制普通科の設置校が少ないことから、本校への進学を希望したものである。また、河内長野市方面から通学している生徒もいるが、急行電車を利用すれば比較的短時間で通学できる。

委員

高野線沿線の学校が連携して合同説明会等を実施することも有効ではないか。学校統廃合が議論される中、定時制課程も対象となる可能性があり、その在り方について慎重な検討が必要である。学び直しに特化した高校の設置も一案ではないか。

私自身、30歳を過ぎてから高等学校卒業資格を取得するため本校で学んだ経験がある。高卒資格がなければ取得できない資格や就けない職業も多く、学びの場の重要性を強く実感している。また、小・中学校で学習支援に携わった経験からも、本校で行われている習熟度別授業は非常に有効な取組であると考えている。

委員

学校として生徒数を増やすよう求められているのか。

事務局

そのような要請は受けていないが、より多くの生徒に本校の魅力を伝えて入学してほしいと考えている。

委員

私学へ生徒が流れているという話を聞く。私立高校は卒業後の進路実績を特色として生徒募集を行っているが、定時制課程の生徒はどのような思いで入学してくるのか。また、卒業後はどのような進路を目指しているのか。30年前と現在では、定時制高校に求められる役割も変化しているように思う。生徒は昼間どのような生活を送っているのか。

事務局

昼間はアルバイトをしている生徒もいれば、自宅で過ごしている生徒もいる。不登校や挫折を経験した生徒が多い中、本校では授業や学校生活を通じて成功体験を積み重ね、自己肯定感を高めながら成長できるよう支援している。また、「できなかったことができるようになる」経験を重ねることで学ぶ喜びを実感し、自信につなげている。授業では、生徒が主体的に考える場面を設けたり、教員が独自に作成した教材を活用したりしながら、グループワークや討論活動も行っている。生徒にどのような力を身に付けてほしいかを常に意識しながら授業づくりを進めている。